

## 会 議 録

会議の名称	第4回坂祝町学校の将来のあり方検討委員会
開催日時	令和5年12月19日(火) 午後3時00分～午後4時45分
開催場所	坂祝町中央公民館 ホール
出席者	委員13名 事務局 5名
欠席者	委員 2名
会議の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 教育長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの会議や視察の振り返り</li> <li>・前回会議で出された宿題の回答（通学距離と時間）</li> </ul> </li> <li>3. 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 坂祝町の学校の将来のあり方の提案（古賀委員長）</li> <li>(2) 坂祝町の目指すべき方向性</li> <li>(3) 答申に向けての意見確認</li> </ul> </li> <li>4. 事務連絡 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 今後の予定</li> <li>(2) その他</li> </ul> </li> <li>5. 閉会</li> </ol>
会議の公開 又は非公開	公開
傍聴人数	5名
発言内容	別紙「議事の内容」のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 会議日程・委員名簿</li> <li>・資料2 第3回会議録</li> <li>・資料3 教育長プレゼン資料</li> <li>・資料4 古賀委員長資料「坂祝町が目指すべき方向性（たたき台）」</li> </ul>
会議録の 作成方針	要点記録
その他の 必要事項	—
作成者	坂祝町教育委員会 教育課長 堀部芳章

■ 別紙

議事の内容（発言者、発言内容、審議経過、結論など）	
	<p>1 開会（司会 古賀委員長）</p> <p>2 教育長あいさつ（プレゼンテーション）</p> <p>3 議事</p> <p>（1）坂祝町の学校の将来のあり方提案（プレゼンテーション）</p>
委員長	<p>北方学園に昨日行ってきた。これを建設するとき、（私は）北方町教育委員会にいた。子どもたちの様子は、昔は中学生が荒れていたが、昨日見たら落ち着いていた。あの年頃は、同世代の中でマウントを取りたがるが、義務教育学校になったことで、下の子（小学生）からリスペクトされる。</p> <p>0歳から15歳までの一環カリキュラムは、短い期間の中で整備されたため、かなり先生の負担があったと思う。</p> <p>通学時間と距離は、国の基準では小学生4キロ、中学生6キロが適正とされている。それを考えると、坂祝町では黒岩地区あたりがいい。</p> <p>第5回は、答申案を示すため、今日の会議は答申案に向かう。答申案は、1月終わりまでに作成し、2月上旬に委員に配布、中旬に意見をもらうこととしたい。</p>
W委員	<p>前任の神淵中学校は、小学校と併設されていた。校舎がつながっているため、一つのスリッパで往来できた。養護教諭・栄養教諭・支援員などは行き来しやすい。</p> <p>中1ギャップに関して、小学校へ行けば知っている先生がいるのでそうしたことはなかった。</p> <p>英語。音楽の先生が小学校でも指導していた。また小学生が中学校の調理室・音楽室・木工室・美術室を授業で使っていた。大きくて使いやすいという理由。</p> <p>体育館は併用。例えば卒業式は、午前が中学校、午後が小学校だったが、イス並べなど会場づくりは小中の先生が協働でできた。</p> <p>引き渡し下校のときは、中学生のお兄ちゃんと小学生の弟と一緒に待っていられた。運動会は、合同で実施することも可能だったが、小6のリーダーシップを発揮する場を考えるとあえて分けて実施していた。</p>
	<p>（2）坂祝町が目指すべき方向性（委員の意見）</p>
W委員	<p>お金（建設費）がどれくらい必要なのか？</p> <p>近年の熱中症対策を考えると、スポーツドーム</p> <p>図書室で、地域の人と一緒に読書ができる環境。</p> <p>初めから義務教育学校は難しいので、まずは横並び（併設）で協力しながら進めるのがいい。“つなぐ”ことは何かを先生がじっくり考えること。</p>
U委員	<p>まずは、併設にして教育をどうするかを考える。地域住民と一体がいい。</p> <p>先ほど教育長が言われた“出口”というのが分からない。</p> <p>この会議の結果をCSにも説明するべき。答申の原案をCSにも説明してほしい。また、行政や議会も知りたいし、いろいろな人との意見交換が必要。</p>
Y委員	<p>建設基金は3年で9,000万円積んだ。今後はいくら積むのかについては、厳しい財政状況の中、財政調整基金から建設基金へ積んでいく。</p> <p>建設費の10数%は必要なので、50億円なら15億円程度を積み、あとは借入や補助金で…。極力基金に積んでいく。基本構想策定後に、建設費等を算定する。</p>

- U委員 率直に、小中9年間の教育はいいと思う。  
 現在、小中の校長や養護教諭、事務職員の交流はあるが、そのほかの先生の交流がない。一緒にいると先生同士のコミュニケーションは取りやすくなり、心のメリットになる。  
 小中一体だと、CSに理解されやすくなる。  
 (小中学校が)隣同士で建てばメリットが大きい。中学校の先生が小学生を教えてくれば、高学年の学力のレベルが高くなる。音楽、理科社会などの専門家が兼務でやれば学べる。  
 靴を履き替えずに行き来できるのはいい。6年生の活躍の場をいかにつくってあげるかが大切。
- W委員 答申のイメージができない。今後、町民への周知が大事で、慎重に、積極的に進めるべき。
- U副委員長 これまでの会議で、だいたいの格好はできたと思う。  
 校舎にはなるべく共有スペースを使う。今後、CSは学校に関わる機会が増えるので、もっと人材が必要になる。  
 立地場所は難しい問題で、例えば中央公民館付近になると、酒倉の子の通学路には、西谷川の増水や郷部山の土砂くずれなどの危険性も考えなければいけない。  
 もう少し話し合い、みんなで団結して学校づくりの環境を…。
- I委員 一番大事なことは、学校の建替え。親としては、義務教育学校はありがたいが、町民の立場だと、いきなりやることには不安がある。もっと下の保護者の意見も必要。何が重要なのか分からなくなってきた。
- M委員 不安がある。小中の9年間は魅力で、専門的な教育ができることはメリット。  
 (中央公民館付近になれば)送迎は便利になる。
- K委員 同じ敷地に小中学校ができれば効率的で良い。ただ、避難所の分散ということを考える必要もある。  
 登下校の時間の問題では、どこに子どもが多いのかも考えること。若い世代や子どもたちの意見も取り入れたい。
- B委員 先生たちの話を聞いて、先生同士のコミュニケーションが取れることは良い。  
 (うちの子は)小学生のときは勉強をしていたが、中学生になってしなくなり成績が落ちた。小学校の“宿題”と中学校の“自主勉強”の違い。
- K委員 施設が重要で、両方に対応できる学校。義務教育学校が良いと思っていたが、“ありき”ではなく、地域と一緒に造ることが大事。
- O委員 ハードが優先され、ソフトはこれからで、保護者の意見が大事。  
 小さな町坂祝ならではの、地域力を活かせばいい。既存のいろんな施設が使えるといい。思い出がつくれる学校にしたい。

### (3) 古賀委員長の所見

- 委員長 合意形成は大事で、行政の思い、議会の考えも知りたい。いろんな人との意見交換が必要。この答申をもって、保護者や地域と話し合いながら行政が決めていくことになる。  
 予算が40億円かかるとしたら、0からのスタートなので心配はある。  
 教育カリキュラムの作成は大変だが、先生たちが頑張る。できるところから始めていく。

行政は、答申を受けて財政を考えていかなければいけない。

今日の意見を、答申書のたたき台に盛り込み、1月末までに作成してみなさんにお示しする。

#### 4 事務連絡

##### (1) 今後の予定

教育課長 次回は来年2月27日、火曜日。時間は午後3時から。場所はこの会場。

##### (2) その他

なし。

#### 5 閉会

委員長 (閉会あいさつ)

修了 16:45